



## 安全運転 キホンのキ

# トラックと比べて小さく、小回りが利く二輪車 行動特性を予測し回避する運転を

自動二輪車(以下、二輪車)や原動機付自転車(以下、原付バイク)は、車体が小さく小回りが利くため、トラックからは見落としやすく、急な進路変更によって接触してしまう恐れもあります。事業用貨物自動車の対二輪車事故の状況を見ると、死傷事故件数は「右折時衝突」が最も多く、次いで「出会い頭衝突」となっています。また、事故要因の大部分を占めるのが「安全不確認」でした。そこで今回は、二輪車の行動特性とドライバーに求められる安全運転のポイントについて紹介します。

出典：公益社団法人 全日本トラック協会「事業用貨物自動車の交通事故の発生状況 平成30年8月」



**二輪車  
行動特性**

**急な進路変更や  
バランスを崩しやすい**

**危険回避運転を**

### 二輪車は急停止すると バランスを崩して転倒する

二輪車に乗車中、急ブレーキをかけると優れた運転技術を持ったライダーでも転倒する恐れがあります。そのためトラックのドライバーは、二輪車に急ブレーキをかけさせるような運転をすれば間違いなく事故につながると思っておきましょう。

### ライダーの視界は狭く、 トラックのウインカーに気づかないことも

二輪車は路面の変化を受けやすいため、視線が路面に注がれやすく、遠くの方や左右の方向をあまり向かない傾向があるとされています。そのため、前車のウインカーが見えていないことも。トラック運転時に左折や車線変更する際、並走している二輪車が「ウインカーに気づいているだろう」と思い込むのは危険です。

### 左折時には「二輪車の巻き込み」に注意

二輪車は車体が小さいため、トラックから見落としやすくなります。左折する際、トラックは内輪差が大きく左側後方の死角が広いので、確認が不十分だと二輪車を巻き込む危険があります。トラックの車両特性を理解した運転に努めましょう。



### 右折時には「サンキュー事故」に注意

特に注意したいのが、対向車を道を譲られて右折するときです。対向車の側方の死角から二輪車が出てきて衝突する「サンキュー事故」の危険が高まります。



### 二輪車の急な進路変更に注意

原付バイクは道路の左端を走行することが多いのですが、駐車車両などの障害物を避けるために、急に進路変更してくることがあります。また二輪車は、1メートルの間隔があれば通行できるといわれており、車の間を縫って走行することも。中には自分本位でジグザグ走行をする二輪車も見られますので、十分な注意が必要です。



### 二輪車の行動特性を考えた安全運転のポイント

- ①急ブレーキをかけさせるような運転は禁止
- ②ライダーの視界は狭く前車が見えていないこともあるので「だろう」運転は禁止
- ③左折時は「巻き込み」、右折時は「サンキュー事故」に注意
- ④ジグザグ走行など自分本位の走りに注意

**二輪車と衝突・接触すると重大事故につながりやすい！  
二輪車の動きを予測して、危険回避できる運転に努めてください。**

出典：公益社団法人 全日本トラック協会「事業用トラックドライバー研修テキスト9 危険の予測及び回避」

### 日野自動車は、多彩な安全装置で事故を防止。

#### 〈左後側方視界補助カメラ〉

**左後側方の死角を最小化し、安全な左折をサポート。**

運転席から視認しづらい左後方から左側方の広い範囲を表示し、左折時、発進時のよりスムーズな状況確認に寄与。死角の最小化により、安全運転に貢献します。

\*日野プロフィア、日野セレガの一部にオプション装備です。



左後側方視界補助カメラ